


平成
23年度

医薬品包装セミナー

医薬品の適正な情報伝達とユーザビリティの向上

プログラム

日程 ▶ 平成24年3月16日〈金〉
会場 ▶ (社)日本薬学会 長井記念ホール
主催 ▶  公益社団法人日本包装技術協会

時間	講演内容	講師
10:00 ▼ 11:10	<p>『商品バーコードによる視覚障害者向け音声案内の実現に向けて～目が見えなくても中身が分かる商品パッケージを目指して～』</p> <p>視覚障害者が自らバーコードをスキャンすることにより、人の目を借りることなく商品名を知ることが可能とする取り組みが、情報処理学会を中心に、IT・デザイン・印刷・パッケージング分野横断で進められている。</p> <p>本講演では、目の見えない方にも中身がわかるようにするためのITの工夫やパッケージの工夫と、それを医薬品に応用するうえでの諸課題について報告する。</p>	<p>筑波大学 学術情報メディアセンター 稜川 友宏 氏</p>
<p>コーディネーター ▶ 大日本印刷(株) 包装事業部 開発本部 ライフサイエンス市場開拓プロジェクトチーム Mチーム ゼリア新薬工業(株) 中央研究所 コンシューマーヘルスケア研究部 リサーチマネージャー</p>		<p>岩村 泰造 氏 根岸 宗広 氏</p>
11:20 ▼ 12:30	<p>『新バーコードを活用した特定生物由来製品管理システムの構築』</p> <p>島根県立中央病院では、医療用医薬品へのバーコード(以下、新バーコード)表示に伴い、新バーコードを活用した特定生物由来製品(以下、特生物)の管理システムを構築した。</p> <p>その主な機能は、納入時の入庫登録、払出時の仮登録、施用後の確定登録、配置薬の補充と施用登録および照会機能からなる。</p> <p>新バーコードの活用、電子カルテの患者情報及び注射オーダー情報等を利用することにより、手作業による入力を最小限にし、正確に登録が行えるようになった。また、患者単位の施用履歴や薬品単位での在庫・払出・配置・施用状況等を容易に確認でき、保険衛生上の被害が発生した場合などに迅速に対応を取ることが可能となった。さらに、納入から施用後の各処理に要する時間は導入前に比べて有意に短縮出来た。</p> <p>本講演では、システムの概要並びに、新バーコードの活用により、ヒューマンエラーの防止、有効期限管理、トレーサビリティの確保、業務の効率化の向上などの本システムの有用性について紹介する。</p>	<p>島根県立中央病院 薬剤局 薬剤科 薬剤主任 安食 健一 氏</p>
<p>コーディネーター ▶ 中外製薬(株) 製薬本部 生産工学研究部 副部長 (株)カネ工 東京支店 営業一部 部長</p>		<p>山東 義明 氏 小濱 博信 氏</p>
13:30 ▼ 14:40	<p>『人間の認知行動特性から医療過誤と医薬品包装デザインを考える』</p> <p>本講演では、医療場面でのヒューマンエラーを認知行動特性から解説したいと思う。本来、状況を人間が正しく判断し、その場ですべきことをしていればエラーは起こらない。ある状況ですべきではないことをしてしまう(あるいはすべきことをしない)ときにエラーが起こる。そうしたエラーは、人間の認知行動特性を反映しており、様々なレベルの原因がある。例えば、人間の知覚解像力には限界があり、暗いところでは文字の判別に失敗することがある。また、一時的な記憶能力にも限界があり、薬剤名と含量の組み合わせを覚えながら別の作業をすると、その組み合わせを誤ってしまうことがある。さらに、長期間にわたって反復して学習した行動は、自動的に意識せず出来るようになってしまい、環境やルールが変わった時の適応を妨げる。</p> <p>本講演では、このような、知覚、記憶、運動制御、注意、判断といった様々な認知プロセスでヒューマンエラーの原因となりうる事象を取り上げ、医薬品包装に関わる諸点について考察することを予定している。</p>	<p>産業技術総合研究所 ヒューマンライフ テクノロジー研究部門 主任研究員 河原 純一郎 氏</p>
<p>コーディネーター ▶ 藤森工業(株) 研究所 グループリーダー 全薬工業(株) 一般用薬品開発本部 開発部 包装企画課 係長</p>		<p>鈴木 豊明 氏 溝呂木 太郎 氏</p>
14:50 ▼ 16:00	<p>『製品を手にするのは誰か』</p> <p>調剤業務を通して、薬剤師は医薬品包装の問題点を発見することがある。例えば、ピロー包装が破りにくい、シートが切りにくい、印字が見えにくい等である。これらの問題点は、薬剤師のみでなく、薬を服用あるいは使用、保管する患者も感じている事であり、改善が望ましいのではないか。</p> <p>そこで本講演は、「製品を手にするのは誰か」をテーマに、「簡便性」、「品質保持」、「リスク回避」の視点から、医薬品包装の問題点と解決策の事例を示し紹介する。</p>	<p>株式会社アーク薬局 なごや調剤薬局 薬局長 澤田 覚志 氏</p>
<p>コーディネーター ▶ 第一三共(株) 製薬技術本部 製剤技術研究所 包装研究グループ長 岡田紙業(株) 東京支店 営業第2課 課長</p>		<p>片山 通博 氏 公文 直哉 氏</p>

講師のご紹介

■菟川 友宏 氏

筑波大学
学術情報メディアセンター

1995年 筑波大学自然学類卒業
学部在学中に福祉機器に関心をもち、情報学類生に紛れてハードウェアやアルゴリズムを学ぶ
大学院より情報分野に転身
2000年 同大学院工学研究科修了
同年静岡大学情報学部に着任し、パーソナルインターフェイスを中心とした機器連携によるアクセシビリティ向上の研究に従事
2012年より筑波大学学術情報メディアセンターに勤務

■安食 健一 氏

島根県立中央病院 薬剤科
薬剤科 薬剤主任

1999年3月 長崎大学薬学部卒業
2001年3月 長崎大学大学院 薬学研究科 臨床薬学専攻 修了
2001年4月 島根県立中央病院 薬剤科
2005年4月 島根県立湖陵病院(現 県立こころの医療センター)薬剤科
2009年4月 島根県立中央病院薬剤科
日本病院薬剤師会精神科薬物療法認定薬剤師、日本病院薬剤師会生涯履修認定薬剤師、日本薬剤師研修センター認定薬剤師

■河原 純一郎 氏

産業技術総合研究所
ヒューマンライフテクノロジー研究部門
主任研究員

1997年 博士(心理学)取得
1998年 プリティッシュコロロンビア大学博士 研究員
1999年-2005年 広島大学助教授
2006年より現職
専門は見落とし、不注意、記憶違いやユーザビリティに関わる認知心理学的研究
(著書)イラストレクチャー認知心科学(分担執筆、第7章注意と眼球運動)、オーム社 心理学の実験倫理 勁草書房 等

■澤田 覚志 氏

株式会社アーク薬局
なごや調剤薬局 薬局長

2000年 名城大学薬学部卒業
2000年-2001年 名城大学薬学部薬学専攻科 国立名古屋病院 救命救急センター研修
2001年-現在 株式会社アーク薬局 なごや調剤薬局
2002年-現在 薬局長(管理薬剤師)
(著書) UCSFに学ぶできる内科医への近道 南山堂、ERの哲人 CBR

開催要領

日時:平成24年3月16日(金) 10:00~16:00
会場:(社)日本薬学会 長井記念ホール
東京都渋谷区渋谷2-12-15
TEL.03(3406)3326
参加費:会員:19,950円(消費税5%、テキスト代含む)
同時に3名以上でお申込みの場合には、割引価格として1名16,800円
一般:26,250円(消費税5%、テキスト代含む)
定員:100名

お申込み方法

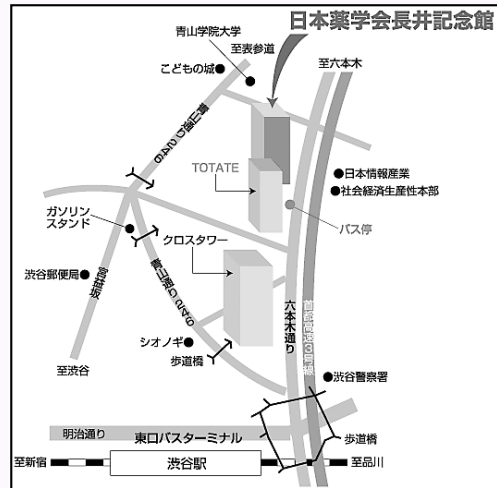
- 本誌申込書に必要な項目を全て記入の上、FAXにてお申込み下さい
協会HPからのお申込みも出来ます。協会HP:<http://www.jpi.or.jp>
- 申込みされた方には後日参加証と請求書をお送りします。
- ご都合が悪くなった場合、代理の方の出席は差し支えありません。
(当日受付にて名刺を頂戴します)

お問合せ並びに申し込み先

公益社団法人日本包装技術協会 医薬品包装セミナー係 担当:竹内
〒104-0045 東京都中央区築地4-1-1 東劇ビル10F
TEL.03(3543)1189 FAX.03(3543)8970
e-mail:takeuchi@jpi.or.jp

平成23年度医薬品包装セミナー 会場案内図

- 会場:(社)日本薬学会 長井記念ホール
〒150-0002 東京都渋谷区渋谷2-12-15
TEL. 03-3406-3326
- 交通手段
JR山手線、東急東横線、東急田園都市線、京王井の頭線、地下鉄銀座線・半蔵門線の渋谷駅下車
JR渋谷駅東口より、高樹町方面へ高速道路3号線沿いに8分



個人情報の取り扱いについて

1. 個人情報は「平成23年度医薬品包装セミナー」の事業実施に関わる資料等の作成、並びに当会が主催・実施する各事業におけるサービスの提供や事業のご案内のために利用させていただきます。なお、作成資料は、開催当日、関係者に限り配布する場合があります。
2. 参加申込みによりご提供いただいた個人情報は、法令に基づく場合などを除き、第三者に開示・提供することはありません。

平成23年度医薬品包装セミナー参加申込書

公益社団法人日本包装技術協会 竹内 行 FAX.03(3543)8970 No.

会社名						
所在地	(〒)					
電話				FAX		
参加者	氏名	所属役職			e-mail	
	氏名	所属役職			e-mail	
	氏名	所属役職			e-mail	

講師への質問事項

*当日のプログラムの質疑応答の際参考とさせていただきます。

講師宛